アクセシビリティ推進委員会

年報

2022

障がい学生支援の実施状況について

One life, Many answers

札幌学院大学
SAPPORO GAKUIN UNIVERSITY

巻頭言　～経験のないことについて

2022年度の年報を発行いたします。毎年この巻頭言に何を書くべきか悩むのですが、今年度をふり返ってみると「合理的配慮」とは何かをあらためて考えさせられた1年だったように思います。合理的配慮は、障害者の機会平等と社会参加を確保するために、過重な負担を伴わない範囲で現状を変更するために講じる措置のことで、障害者権利条約批准(2014年)のための障害者差別解消法制定など一連の法整備のなかで登場した考え方です。例えばみなさんも目にしたことのあるパソコンテイクやポイントテイク、通学介助などがそうで、障害のある学生が平等に教育を受けられる機会を確保するために欠かせない取り組みです。

この考え方は、非障害者を中心に編成されてきた現行の社会のあり方や考え方の変更を要請するものですが、それはほとんどの場合、私たちに「経験のないこと」としての取り組みを求めます。今では本学のスタンダードな合理的配慮として定着しているパソコンテイクやポイントテイクも、そのはじまりはやはり「経験のないこと」でした。障害者の存在を考慮してこなかった社会に暮らす私たち(非障害者)にとって、障害者の機会平等と社会参加を具体化するということは、これまでやらなくて済んできたことをやらなければならないということなので、「経験のないこと」というのはその意味であたり前のことでもあります。そして、障害者一人ひとりのニーズに応じて、私たちにとっての経験のないことが増えていくことは良いことであり、それに一つ一つ取り組むことによって社会的障壁の解消へとつながっていきます。合理的配慮の掲げる理念のひとつ、共生社会の実現とはそういうことだろうと思います。

一方で、この「経験のないこと」にはコンフリクトが伴いやすいものです。非障害者中心の社会でこれまでやらなくて済んできたことをやらなければならないというわけですから、これもある意味では当然のことと言えるかもしれません。そこには一定のコストや負担が生じ、それを強いられる側が自らの権利利益を守るために障害者の権利利益を侵害する方向に力が働くということは容易に考えられることです。ですから、配慮を提供する側(この場合大学)と障害者(学生)が等しい立場で、相互の事情を尊重しながら応答し合い、その応答を通して問題を理解し一緒に解決していくような方法、つまり〈対話〉が重要になります。合理的配慮ではこれを建設的対話といいます。

ここであらためて考えておきたいことは、この〈対話〉に対する私たちの向き合い方です。それを一言で言えば"彼らから学ぶ"ということなのですが、経験のないこととは別言すれば「わからないこと」でもあるのでまずは単純にこの姿勢が必要と思います。そしてもっとも重要なことは、今の社会で私たちがやらずに済んできた事柄を学び、やらずに済んできた私たちの社会的位置の有り様を学ぶ、そのような契機として〈対話〉に向き合うことが問われているのではないか、とこの1年を振り返って考えさせられています。

以上のことはあくまで抽象的かつ一般論として、また自戒を込めて述べたものですが、障害者差別解消法の浸透とともに障害のある学生の高等教育を受ける機会と参加の機運は高まり、同時に私たちにとっての「経験のないこと」は増えるはずです。むろん個別具体的には様々な難しさも生じるでしょう。そうであればこそ、学内の支援体制も充実されつつある今日において、理念としての合理的配慮が意味することをあらためて確認し自戒も込めて記しておきたいと思います。

2023年3月31日

アクセシビリティ推進委員会委員長

松川　敏道

目次

Ⅰ　アクセシビリティ推進委員会の概要・・・・・・・・・p1
1．アクセシビリティ推進委員会
2-1．アクセシビリティ・学生スタッフ
2-2．アクセシビリティ・学生スタッフ 支援別延べ人数
3．参考資料　障がい学生数
Ⅱ　合理的配慮の実施状況・・・・・・・・・・p2
1．情報保障（ノートテイク・パソコンテイク・遠隔テイク・文字起こし・UDトーク）
2．ポイントテイク（筆記代行）
3．通学・移動支援
4．授業配慮の依頼状況
Ⅲ　アクセシビリティの向上と学生支援の取り組み ・・・・・・・・・・p4
1．すきるupプログラム
2．社会で活躍している卒業生との交流会
3．静かな空間の利用状況
4．学生面談の実施状況
Ⅳ　アクセシビリティ・学生スタッフの活動状況・・・・・・・・・・p6
1．支援者募集と説明会の実施状況
2．講習会／臨時テイク等の実施状況
Ⅴ　アクセシビリティ推進委員の活動状況・・・・・・・・・・p7
1．関係機関の委員委嘱
（1）日本学生支援機構（JASSO）
（2）日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）
2．発達障がいのある大学生への修学就職支援に関するFD/SD研修会の開催
3．コーディネーター座談会
4．研修会・会議等の参加

Ⅰ アクセシビリティ推進委員会の概要

1．アクセシビリティ推進委員会

松川敏道（人文学部人間科学科／委員長）・藤野友紀（人文学部人間科学科）・田中敦士（人文学部人間科学科）・斉藤美香（心理学部臨床心理学科）・皆川雅章（法学部法律学科） 佐野友泰（心理学部臨床心理学科／副学長）・湯川郁子（経済経営学部経済学科）・卜部洋子（学生相談室カウンセラー）・辻由依（学生相談室カウンセラー）・樋田康宏（教育支援課）・廣嶋　進（学生支援課）・佐藤博昭（学生支援課）・水上真一（サポートセンター）・青木美保（サポートセンター）・近藤真樹（障がい学生支援コーディネーター）・藤原祐子（障がい学生支援コーディネーター）

2-1．アクセシビリティ・学生スタッフ

（人）

学科	経営	経済経営	こども発達	人間科学	英語英米文学	臨床心理	法律	経済	大学院	計
1年生	0	0	0	8	0	5	0	0	0	13
2年生	0	1	0	3	0	1	5	0	0	10
3年生	4	0	4	8	3	3	1	1	0	24
4年生	1	0	4	5	1	16	3	3	0	33
計	5	1	8	24	4	25	9	4	0	80

※2023年3月31日現在

2-2．アクセシビリティ・学生スタッフ支援別延べ人数

（人）

	パソコンテイク（含む遠隔／文字起こし）	ノートテイク	ポイントテイク	通学介助	計
1年生	5（含む遠隔0／文字起こし0）	0	10	5	20
2年生	15（含む遠隔4／文字起こし3）	0	9	5	29
3年生	34（含む遠隔10／文字起こし11）	0	20	6	60
4年生	41（含む遠隔7／文字起こし13）	10	15	18	84
計	95（含む遠隔21／文字起こし27）	10	54	34	193

※2023年3月31日現在

3．参考資料　障がい学生数

（人）

	聴覚	視覚	肢体不自由	病弱・虚弱	発達障害	精神障害	重複	その他	
診断書のある学生	1	0	6	3	13	16	5	4	48
診断書のない学生	1	0	0	0	0	2	0	2	5
計	2	0	6	3	13	18	5	6	53

※数値は診断書の有無にかかわらず授業配慮の依頼など何らかの支援を行っている学生数。2023年3月31日現在。

Ⅱ 合理的配慮の実施状況

1．情報保障（ノートテイク･パソコンテイク･遠隔テイク･文字起こし･UDトーク）

通常の授業における情報保障

前　期		1年生	2年生	3年生	4年生	計
情報保障を利用した学生数（人）		0	0	1	0	1
情報保障を行った科目数※1		0	0	12	0	12
※2	ノートテイク	0	0	0	0	0
	パソコンテイク	0	0	9	0	9
	遠隔テイク	0	0	0	0	0
	文字起こし	0	0	3	0	3
	UDトーク	0	0	0	0	0

※2023年3月31日現在

後　期		1年生	2年生	3年生	4年生	計
情報保障を利用した学生数（人）		0	0	1	0	1
情報保障を行った科目数※1		0	0	9	0	9
※2	ノートテイク	0	0	0	0	0
	パソコンテイク	0	0	8	0	8
	遠隔テイク	0	0	0	0	0
	文字起こし	0	0	1	0	1
	UDトーク	0	0	0	0	0

※2023年3月31日現在

※1．1科目の時間は90分、授業数は半期で15回
※2.ノートテイク：手書きによる文字通訳、　パソコンテイク：パソコンを用いた文字通訳、
遠隔テイク：T-TAC Caption接続による文字通訳、
文字起こし：音声付動画への字幕作成・修正、YouTube等を使用して文字通訳、
UDトーク　：音声認識による文字通訳
※3.情報保障の支援では、テイクの場合1時間1,410円の謝金が学生スタッフに支払われます。文字起こし作業におけるテイク時間としての換算は、（動画時間数）×4倍で時間計算を行いました。
※4.手話通訳（外部委託）による情報保障は１科目（通年）実施。また、今年度はロジャーを使用しての情報保障は行いませんでした。

2. ポイントテイク（筆記代行）

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
ポイントテイクを利用した学生数（人）	1	1	1	0	3
ポイントテイクを行った科目数※1【前期】	12	12	9	0	33
ポイントテイクを行った科目数※1【後期】	14	11	8	0	33

※2023年3月31日現在

※1．1科目の時間は90分、授業数は半期で15回
※ポイントテイクでは、1時間940円の謝金が学生スタッフに支払われます。

3. 通学・移動支援

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
通学介助を利用した学生数（人）	1	1	0	0	2
週あたりの登下校回数【前期】	0	0	0	0	0
週あたりの登下校回数【後期】	7	2	0	0	9

※2023年3月31日現在

※学外からの通学介助では、1回500円（学内の移動介助は1回300円）の謝金が学生スタッフに支払われます。

4. 授業配慮の依頼状況

[前期47名] 肢体不自由学生5名、発達障がい・精神障がい学生30名、その他12名

[後期40名] 肢体不自由学生4名、発達障がい・精神障がい学生27名、その他9名

Ⅲアクセシビリティの向上と学生支援の取り組み

1. すきるupプログラム

すきるupプログラム（通称：すきっぷ）は，札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるの機関支援を受ける形で2020年度から実施していた「Tossプログラム（Transition Ogaru from School life to Social life Program）」をベースとしている。Tossプログラムは「目標設定スキル」，「コミュニケーション/社会性スキル」，「感情コントロールスキル」，「実行機能スキル」といった，4つのキースキルに焦点を当てた就労前支援プログラムである。すきっぷはTossプログラムから得た知識やスキルを活かしながら，本学の学生の特徴および学内での継続支援の視点を考慮して内容を再構成したものである。

Tossプログラムからすきっぷへ再編成した際の大きなポイントは，“1クールに実施するスキルを絞った”，という点があげられる。具体的には，「①ヘルプを出すスキル（コミュニケーション/社会性スキル）」，「②情報整理スキル」，「③感情コントロールスキル」の3つのスキルに分け，年度内に3クールを実施することとした。また，毎クールに「目標設定スキル」を入れる構成とした。スキルを限定し実施することのメリットとしては，①具体的なスキルを前面に出せるため，当該スキルに不足を感じている学生が参加しやすい（参加学生とプログラム内容が合致しやすい），②具体的なスキルに特化することでスキル理解が促進される，③1クール辺りの実施回数が減るため学生の負担も減少し参加しやすくなる，などがあげられる。

また，すきっぷはグループ学習でスキルを学び，個別学習でスキルを個別化し，現場スキルトレーニングでスキルを実際に試すという循環型のプログラムとなっている。今年度の現場スキルトレーニングは生協と図書館にご協力いただき実施することが出来た。日誌を利用した生協と図書館の担当者からのフィードバックも，学生が自分自身を振り返る大切な機会となっていた。

2022年度，第1クールは7名，第2クールは3名，第3クールは3名の学生が参加した。現在，すきっぷに参加する学生のリクルートは，学生相談室またはサポートセンターで関わりのある学生に声をかける，または教職員からの紹介としている。プログラムに参加してくれた学生に意義のあるプログラムを提供できるよう，プログラム内容およびリクルート方法については今後も検討していきたい。

【辻由依】

2. 社会で活躍している卒業生との交流会

サポートセンター、キャリア支援課と学生相談室共催で、オンラインによる「社会で活躍している卒業生との交流会」を2023年３月18日に開催した。

卒業後に就労移行支援を利用し、社会人として活躍している本学の卒業生2名と福祉的就労を検討している学生、7名が参加した。卒業生から就職活動のときの不安や期待、今の職場での対人関係や仕事での工夫などなどが語られた。また、学生からの積極的な質問もあり、とても有意義な交流会だった。学生からの質問については、就労移行支援事業所を利用して「良かったこと」「就職が決まるまでの期間」「障がい者枠で仕事するきっかけや不安」等の質問があった。その質問に対して卒業生から「就労移行支援事業所は幅広い年齢層の方々が利用しており、それぞれのペースで就活している。自分の特性や体調により障がい者枠で働くことを選択し、約半年位で就職先が決まり、職場からの理解もあり安心して働いている」等、具体的

かつ丁寧に返答していたことが印象的だった。参加した学生から「就労支援が身近に感じた」「将来の不安が減った」「将来のイメージができた」「就労移行支援も視野にいれたい」等の感想が寄せられた。卒業生からも「焦らず、自分のペースですすめていくと良いと思う」と後輩へ温かい言葉もあった。学生にとって、卒業生との交流会が大きな心の支えになり、将来の選択肢のひとつとして、福祉的な就労移行支援がより身近に感じたようだ。

障がいのあるなしに関わらず、誰もがその能力と適性に応じた雇用の場に就き、卒業後も自立した生活を送ることができるように支援が必要である。これからもサポートセンター、キャリア支援課と学生相談室と学内外と連携しながら、学生の就労への不安軽減の対策、そして、地域への支援としてつなげて行きたいと思う。また、来年度も開催する予定。

【卜部洋子】

3. 静かな空間の利用状況

前期利用延べ人数 10名　※前期4月～9月中旬での利用者のべ人数

後期利用延べ人数 6名

4. 学生面談の実施状況

2022年度入学生　入学前面談 4名実施

※在学生については、前期・後期終了後に、支援の内容やニーズを確認することを目的とした、振り返り面談を対面、電話等で実施。

Ⅳアクセシビリティ・学生スタッフの活動状況

1. 支援者募集と説明会の実施状況

1）新学期学年別ガイダンスでのチラシ配布・支援者呼びかけ

新入生のみ実施（紹介動画と障がい学生支援コーディネーターからの説明）　4月2日

2）障がい学生支援者説明会

新札幌キャンパス　5月16日（説明者：3名、受講者：2名）

江別キャンパス　5月17日（説明者：3名、受講者：14名）

2. 講習会／臨時テイク等の実施状況

1）パソコンテイク講習会／実践練習講習会／養成講座

＜パソコンテイク講習会＞

6月13日～7月4日（※江別キャンパスにおいて4週にわたり開催）

（講師8名、受講者13名）

＜パソコンテイク実践練習＞　※江別キャンパス内の実際の講義における実践練習

前期：7月11日～7月25日の3週にわたり実施／後期：10月3日～1月23日の16週にわたり実施

（前期：講師1名、受講者12名／後期：講師1名、受講者10名）

＜パソコンテイク講師養成講座＞　※次年度へむけて引継ぎを兼ねた講師技術の養成講座

後期：1月18日、19日に開催

（講師1名、受講者7名）

2）ポイントテイク講習会／実践練習講習会／臨時テイク

＜ポイントテイク講習会＞

6月14日～7月8日　（※江別キャンパスにおいて4週にわたり開催）

（講師10名、受講者17名）

＜ポイントテイク実践練習＞　※江別キャンパス内の実際の講義における実践練習

前期：7月14日～7月28日の3週にわたり実施／後期：9月21日～12月5日に4日実施

（前期：講師9名、受講者16名／後期：講師4名、受講者4名）

＜臨時ポイントテイク＞

3/30在学生ガイダンス、12/24人文学部実習報告会、2/10人間科学科卒論発表会

3）通学介助講習会

江別キャンパス　12月5日（現地にて実施）

新札幌キャンパス　12月13日（現地にて実施）

Ｖアクセシビリティ推進委員の活動状況

1.関係機関の委員委嘱

（1）日本学生支援機構（JASSO）障害学生支援委員

松川　敏道（任期：2022年4月1日～2023年3月31日）

（2）日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）運営委員

藤野　友紀（任期：2022年4月1日～2023年3月31日）

2. 発達障がいのある大学生への修学就職支援に関するFD/SD研修会の開催

2022年度発達障がいのある学生への修学就職支援に関するFDSD研修会を2022年7月28日に開催した．前期の授業も終わり，夏期休暇に入る前のタイミングが最善とのことで，多くの教職員で議論して設定した．この日は大学協議会が直前にあり，役職者も揃ってFDSD研修会にそのまま出るようにと学長からアナウンスもされるということもあった．

FDSD研修会の概要は表１の通りである．内容は，（Ⅰ）発達障がい学生の基礎知識，（Ⅱ）発達障がいのある大学生の事例―一次対応編―，（Ⅲ）発達障がいのある大学生の事例―修学編―，（Ⅳ）発達障がいのある大学生の事例―就職活動編―，の4項目から構成された．2021年度に実施した研修会を基礎編とし，2022年度はより具体的な支援場面を想定できるような具体例を取り入れた応用編と位置付けた．

表１　2022年度FDSD研修会の概要

ブランドプロミスの方向性に我々はどう対応していくのか!?

～個性的な学生たちを受け入れ・教育し・送り出すために必要なことpart.2～

日 時　令和４年７月２８日（木曜日）　１５：００～１７：００

目 的　本学教職員による発達障がいのある大学生への修学就職支援スキルの向上

対 象　特任や非常勤を含む全教職員

方 法　遠隔（TEAMS）　チームコード　〇〇〇〇〇

講 師　末吉彩香先生（筑波大学／株式会社Kaien）

プログラム　１５：００～１５：０５　開会挨拶 河西邦人（学長）　司会進行 田中敦士（アクセシビリティ推進委員会委員）

１５：０５～１５：３０　第１部 発達障がいのある学生への窓口・相談対応事例（職員・教員共通）

１５：３０～ １６：００　第２部 発達障がいのある学生への修学支援事例（教員向け）

１６：００～１６：５５　第 ３ 部 発達障がいのある学生への就職支援事例（教員向け）

１６：５５～１７：００　閉会挨拶 松川敏道（アクセシビリティ推進委員会委員長）

昨年度に引き続き学長らの呼びかけで必修型FDSD研修会と位置づけられ、参加者に事後アンケートも実施した。コロナ禍でもあり、感染予防対策からマイクロソフトTEAMSによる完全遠隔方式で実施することとした。ただし、教職員の多忙な業務への配慮から、後日録画をオンデマンドでも視聴できるようにし、その場合も参加と見なすことにした。必修型FDSD研修会への参加状況については、リアルタイムオンラインで参加するか、オンデマンドで1回でもアクセスした参加者を出席とカウントした。

FDSD研修会の参加状況を表２に示した．教職員全体での参加率は56.3%であるが，職員は92.3%であったのに対し，教員は25.9%と著しく低かった．昨年度は教員42.6%，職員95.6%で教職員全体での参加率66.7%であったことから，教員，職員とも低下し，教員の減り幅が20%以上のマイナスであった.

本研修会の内容やアンケート結果等については、札幌学院大学総合研究所紀要第10巻(2022)に投稿した。特集「コロナ禍における多様なニーズのある学生に対する修学就職支援Ⅱ」において2論文が掲載される予定である。

表２　FD/SD研修会の参加状況（2022年9月30日時点=確定）

オンライン参加者	92名（教員28名　職員64名）
オンデマンド視聴者	20名（教員0名　職員20名）　＊両方参加者14名を除く
全体	112名（教員28名　職員84名）
参加率	56.3%（教員25.9%　職員92.3%）
	母数：職員91名　教員108名
	(職員数は専任の事務職員と専門職員，契約職員を加えた数値)

【田中敦士】

3. コーディネーター座談会

昨年度、北海道障害学生支援ネットワーク情報交換会の初めての試みとしてコーディネーター座談会が行われましたが、その際、今後も継続的にこのような場を持つことができたらとの声が多くありました。そして、今年度も9月8日（木）に4大学から6名の障がい学生支援コーディネーターが参加し、Zoomによる遠隔開催で2回目の座談会が行われました。

コロナ禍が継続する一方で対面授業も増え始め、学生の置かれる状況の変化は大きく、気になることや迷うことが増えたとの感覚を1年ぶりに再会した参加者の間で共有しました。そのような中、「どのようにしたらよいだろう？」「他の大学ではどうしている？」といったことをテーマを絞ることなくざっくばらんに相談や意見交換をすることができ、共通点や違いから見えてくることは多く、大変有意義な時間となりました。遠隔ではありましたが久々に顔を合わせて話をすることで、後期が始まろうとする学生たちに向き合うエネルギーを得ることができました。

【藤原祐子】

4. 研修会・会議等の参加

【研修会・会議出席】

＜松川　敏道（教員）＞

●2022年7月28日　　令和4年度　発達障がいのある大学生への修学就職支援に関するFD/SD研修会

●2022年8月29日　　AHEAD JAPAN 第8回（2022年）大会

●2022年11月24日　日本学生支援機構　令和4年度障害学生支援委員会

＜藤野　友紀（教員）＞

●2022年6月1日　　PEPNet-Japan第46回運営委員会

●2022年10月26日　PEPNet-Japan第47回運営委員会

●2023年1月13日　　PEPNet-Japan第48回運営委員会

●2023年3月10日　　PEPNet-Japan第5回総会

●2023年3月10日　　PEPNet-Japan 2022年度正会員大学・機関情報交換会

＜辻　由依（学生相談室カウンセラー）＞

●2022年5月6～8日　　日本学生相談学会第40回大会

●2022年11月20～21日　第60回全国学生相談研修会

●2022年11月10~13日　第63回日本児童青年精神医学会総会（ポスター発表）

＜近藤　真樹（障がい学生支援コーディネーター）＞

●2022年5月27日～8月26日　2022年度大阪公立大学公開講座

●2022年7月2～3日　第30回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会東京大会

●2022年7月23～24日　第16回日本SSW学会全国大会北海道大会

●2022年8～9日　AHEAD JAPAN 2022年度全国大会

●2022年8月25日　2022年度障害のある学生の修学支援に関する講演会（九州ルーテル学院大学）

●2022年9月3～4日　第57回日本精神保健福祉士協会全国大会・第21回日本精神保健福祉士学会学術集会

●2022年11月20～21日　第60回全国学生相談研修会

●2022年11月21日　令和4年度障害学生支援専門テーマ別セミナー

●2022年12月8日　令和4年度学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー

●2023年1月29日　第13回パソコン文字通訳シンポジウム

●2023年2月7日　第18回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

＜藤原　祐子（障がい学生支援コーディネーター）＞

●2022年9月3～4日　第57回日本精神保健福祉士協会全国大会・第21回日本精神保健福祉士学会学術集会

●2022年11月20～21日　第60回全国学生相談研修会

●2023年3月4日　第57回学生相談セミナー

【講師派遣】

＜松川　敏道（教員）＞

●2022年11月10日　北海道情報大学FDSD研修会－私立大学障がい学生支援体制構築に向けて－
（主催：北海道情報大学）

＜斉藤　美香（教員）＞

●2022年11月23日　北海道特別支援教育学会第16回釧路大会　シンポジウム「青年期の特別支援教育」
（主催：北海道特別支援教育学会）

＜藤野　友紀（教員）＞

●2022年9月4日　札幌市難聴親の会「はーもにー」学習会　「大学における難聴学生の学びと支援～入学から就職まで」
（主催：札幌市難聴親の会「はーもにー」）

SAPPORO GAKUIN UNIVERSITY

札幌学院大学アクセシビリティ推進委員会

発行日：2023年3月31日

江別キャンパス：〒069-8555 江別市文京台11番地
新札幌キャンパス：〒004-8666 札幌市厚別区厚別中央１条5丁目1-1
電話番号：011-375-8567（江別キャンパス）
011-802-8635（新札幌キャンパス）
メールアドレス：shien@ims.sgu.ac.jp
（担当事務局：学生支援課学生支援係）